

## 活動計画書

法人名	特定非営利活動法人 霜里学校				
活動名	インバウンド向け 小川町魅力体験ツアーの開発と基盤整備				
活動期間	年6月15日 ~ 年2月15日				
申請活動区分・分野	活動区分名	SDGs推進活動助成 ○ 自立促進活動助成			
	分野名	人間	○ 豊かさ	地球	平和
					パートナーシップ

## 1. 申請する活動の目的

<200字程度> 申請する活動により解決を図る地域課題、社会課題

地域課題はインバウンド対応(産業)の基盤が脆弱であることである。小川町は有機農業の里として50年以上の歴史があり、農林水産祭での天皇杯受賞(H22年)、有機農業での耕作面積が約20%を占めるなど有機農業の先進地として注目を集めてきた。また、比企丘陵での谷津沼農業システムは日本農業遺産に登録(R5年)され、両地域共に視察や研修に訪れる方も少なくない。これらの資源循環型の農業や暮らしは欧米系のオーガニックに親しむ層が関心を寄せるコンテンツである。さらに小川町は和紙、日本酒などの伝統文化が息づく歴史ある町「小京都」である。これらのコンテンツと都内からのアクセスの良さから日本らしい風景や暮らしに触れたいインバウンド観光客からのニーズが生まれている。町観光案内所に大手観光会社からの問い合わせも出始めているが対応する基盤が整っておらず、機会損失の状態でありインバウンド産業の確立は急務である。

<200字程度> 上記の課題に対し、申請する活動が必要となる理由

下記の理由で課題解決のために実施する。1)有機農業に触れ、風土を体感できるエコロジカルな自転車ツアー:小川町は低山に囲まれた盆地で60km<sup>2</sup>のコンパクトシティで有機農業の実践地にも15分~30分のサイクリングで到着する。また、都内のインバウンドツアーで自転車は人気であり、すでに需要が把握されている。そこでインバウンド向けに自転車による観光パッケージを提供するため、ツアーコースの開発、人材育成及び案内ツールの制作が必要となる。2)誘客力のある企業と協働で開発する小京都バスツアー:本年、小川町に拠点を設けたイーグルバスのグループ会社イーグルトラベルが展開するエアジャパンとのインバウンド向けバスツアーを小川町で作り上げることで海外からの誘客ルートを確認する。これら2種類のツアーの試行的取り組みと基盤整備により新たな町の産業基盤をつくり町内商店等も含めた活性化を目指す。

## 2. 申請する活動の内容

<200字程度> 申請する活動の概要

- 1)有機農業に触れ、風土を体感できるエコロジカルな自転車ツアーのトライアルと検証。実施の過程で専門家による案内及び語学研修を実施し人材を育成する。また、コース開発と合わせ、ガイドマップ等の資料制作をする。
- 2)誘客力のある企業と協働で開発する小京都バスツアーのトライアルと検証。実施の家庭で専門家によるサービス向上のアドバイスをもらい、事業自走化を目指す。  
→1)2)いずれの活動においても各種事業者と連携を深め、インバウンド事業の自走を目指す。
- 3)PR媒体の制作 助成事業の成果をもとに継続発展するためのPRツールを制作する。

**<200字程度>** 申請する活動の目的を達成するための実施体制、他団体等との連携

実施体制 当団体の小川町観光案内所運営の知見と人材を活かし下記町内外の組織と連携し活動する。

(小川町内)霜里農場、小川町風土活用センター、小川町観光協会、小川町地域おこし協力隊(観光担当)、小川町和紙体験学習センター、松岡醸造株式会社、株式会社雫、一粒合同会社

(小川町外)株式会社雫 協力会社(イーグルトラベル株式会社、株式会社風カルチャークラブ、神田外語学院)

**<200字程度>** 申請する活動の目的を達成するための助成金の活用方法

目的を達成するために助成金が必要な理由は小川町観光協会がインバウンド受け入れの基盤整備の予算措置や人材育成をする予定がないためである。経験豊富な講師を招聘し、ノウハウを獲得できることはもちろん、トライアルに踏み出すことは小川町のインバウンド産業形成に欠かせないステップである。また、県の助成をいただくことで組織的信頼も高まり企業との連携も進みやすくなり、一過性の活動ではなく継続、発展性を担保できると考える。

### 3. 申請する活動の計画

**<200字程度>** 申請する活動の目的を達成するための事業計画

課題を解決するための手順として以下の4ステップを踏む

- 1)インバウンド観光領域の実践者、事業者との綿密な打ち合わせ及び関係機関への情報共有と協力要請を行う。
- 2)広報 ターゲットに合致した広報媒体の選択、デザインを意識し、余裕をもった期間の広報活動を展開する。
- 3)事業本番 安全かつクオリティの高い内容のツアー実施はもちろんだが、実施後のブラッシュアップ及びPR媒体制作を念頭に置き、記録にも重きを置く。
- 4)振り返り 連携する各機関と振り返る際はツアー自体の評価はもちろん、小川町の産業としてのインパクトも含め検証していく。

具体的な計画

活動の名称	実施時期	実施場所	活動の種類	活動の内容
バスツアープログラム企画会議	2024年7月ごろ	オンライン及び小川町	打合せ	イーグルトラベル社とバスツアープログラム検討
サイクリングツアープログラム企画会議	2024年7月ごろ	オンライン及び小川町	打合せ	風カルチャークラブ社とサイクリングツアープログラム検討
資料作成	2024年7月～9月	小川町	事前準備	観光協会、地域おこし協力隊との協働による資料作成
広報活動	2024年7月～9月	小川町から世界へ	事前準備	連携企業との広報
バスツアー実施	2024年10～11月(予定)	小川町	イベント	インバウンド向けツアー実施
サイクリングツアー実施	2024年10～11月(予定)	小川町	イベント	インバウンド向けツアー実施
PR広報素材物制作	ツアー実施後	小川町	その他	次年度以降のインバウンドツアー募集に向けた広報物制作

## 4. 申請する活動の効果

### <200字程度> 申請する活動の効果

地域レベルの効果:地域課題であるインバウンド対応(産業)の基盤の脆弱性は本活動により一定程度解消され、小川町のインバウンド観光に関する問い合わせに対する姿勢が受動的姿勢から能動的姿勢に変化する。R5年度小川町観光案内所の外国人観光客の利用約80名→R7年度以降800名以上見込む。(小川町観光案内所 R5年度年間利用者数27,000人)県レベルでの効果:訪日外国人の埼玉県での消費額は全国16位で、関東圏内では4位である。1位である東京都に隣接する我が県のインバウンド観光の可能性はまだまだ伸び代を感じるところであり、新規性の高い小川町のインバウンド観光の基盤整備が進めば川越、秩父に続く県内観光の拠点となり、雇用を生む。これは先々、人口流出度が高い県北西部の課題に対応するという効果も期待できる。

### <200字程度> 申請する活動の効果を得るために、申請者の特徴や強みをどのように生かすか

当団体の本事業に対する強みは以下4つであり、共通点は事業実績に基づくエビデンスのある強みであることである。1)小川町の観光情報の蓄積:当団体は小川町観光協会より観光案内業務をR3年より受託しており、観光情報を十分に蓄積し、かつ観光協会、町各課との連携により常にアップデートしている。2)人材の確保:移住サポートセンター業務の経験(H28年5月～)から移住者も含め、町内の語学に自信のある人材を一定程度把握しており、育成対象者の見通しが立っている。3)町内観光コンテンツ関連組織との関係性:本事業の要となる有機農家、酒造会社、製紙業者(和紙の工房)等 各社と観光案内所運営/自主事業等を通して関係性を築いており、インバウンド観光に関する意識醸成も進んでいる。4)大手企業との協働:企業のSDG's貢献に寄与する研修事業を株式会社ルミネ(H28年度～)と協働しており、地域、企業のWIN×WINの関係作りについても実績がある。

### <各項目100字程度> SDGsの17の目標に対する活動の効果(最大3個まで記入可)

1	目標名	8 働きがいも経済成長も	←17の選択肢から選択する
	効果	地域資源を最大限に活用した小川町ならではのインバウンドツアーの確立により地域の伝統文化振興・産品販売促進に効果を発揮する。	
2	目標名	11 住み続けられるまちづくりを	←17の選択肢から選択する
	効果	本事業を通じて新たな関係人口が生まれ、移住にもつながる可能性を内包している。地方移住の促進は人口集中による住宅不足、大気汚染やゴミ問題等の課題を抱える都市の課題解消に効果を発揮する。	
3	目標名	15 陸の豊かさを守ろう	←17の選択肢から選択する
	効果	健康な土を作る有機農業を中心とした資源循環、エネルギー循環を地域で実践している小川町を観光で訪れていただくことで、陸の豊かさの重要性及びその方法を知り、行動する市民を増やすことに効果を発揮する。	

## 5. 活動の継続・発展について

### <200字程度> 活動を継続的に行うための課題、活動の継続性を高める方法、活動を発展させるための取組はどのようなものか

活動の継続性を高めるための課題はクオリティの担保である。その課題を解決するためにトライアルの段階で専門性と先進性、経験値を持ったアドバイザーや企業と協働し、クオリティの高い活動を展開することである。助成金はノウハウを提供してくださる講師への謝礼として活用するが、事前打ち合わせや調査を当団体で行い、有意義な講習となるよう準備をする。また、事前及び活動後にも活用できる広報媒体にも助成金を活用し地域の魅力発信と信頼感を担保する広報媒体を制作し、費用対効果の高いインバウンドツアーの確立を目指す。

**6. 活動の自立について ※自立促進活動助成に応募する場合のみ**

**<200字程度>** 事業収入により活動の継続性を高める方法や取組はどのようなものか

当法人運営を強化する収入は組織全体の視点で考えると寄付と事業収入である。事業収入以外で自立性を高める方法は寄付であり、寄付システムの構築にも取り組んでいる。

しかし、インバウンドに関する活動の自立を目指す場合、「事業」が当然、親和性が高い。基盤整備段階の当団体としては助成金を活用し、事業化をすることが現実的であると考えている。


## 活動収支予算書

法人名 特定非営利活動法人 霜里学校  
 活動名 インバウンド向け 小川町魅力体験ツアーの開発と基盤整備

### 1.収入の部 730,000 円

項目	予算額(円)	積算・内訳等							
<b>a.助成金交付申請額</b>	<b>500,000</b>	<b>※千円未満切り捨て</b>							
<b>b.自己資金</b>	<b>0</b>								
		←自己資金のみ直接金額を入力する							
<b>c.活動実施による収入等</b>	<b>230,000</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
サイクリングツアー参加費	30,000	6,000	円	×	5	人	×		
バスツアー参加費	200,000	10,000	円	×	20	人	×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>d.その他</b>	<b>0</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		

### 2.支出の部 730,000 円

項目	予算額(円)	積算・内訳等							
<b>a.会場費</b>	<b>0</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		

<b>b.通信運搬費</b>	<b>0</b>	数值	単位	×	数值	単位	×	数值	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>c.旅費交通費</b>	<b>0</b>	数值	単位	×	数值	単位	×	数值	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>d.消耗品費</b>	<b>0</b>	数值	単位	×	数值	単位	×	数值	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>e.備品費</b>	<b>0</b>	数值	単位	×	数值	単位	×	数值	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		

